

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第17週 (4/20-4/26) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	17週	16週	15週	14週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	4
インフルエンザ*	27	27	27	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			4/20-4/26	4/13-4/19	4/6-4/12	3/30-4/5	4/13-4/19
			17週	16週	15週	14週	16週
小児科	RSウイルス感染症		3	4	2	5	11
	咽頭結膜熱		1	4	6	3	52
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	57	54	51	43	433
	感染性胃腸炎		135	112	98	100	687
	水痘		10	4	9	5	35
	手足口病		3	7	0	0	15
	伝染性紅斑	○	23	22	22	8	168
	突発性発しん		13	15	14	14	67
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		0	0	1	0	3
流行性耳下腺炎		2	3	3	2	61	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		64	68	29	55	490
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0
	流行性角結膜炎		3	0	2	0	16
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	0	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	1	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	女性	80歳代	病原体等の検出
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	E型肝炎	男性	50歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	女性	20歳代	病原体の検出等
結核	男性	80歳代	画像診断等				
結核	女性	20歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・結核6件(63)、E型肝炎1件(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(6)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第17週のコメント

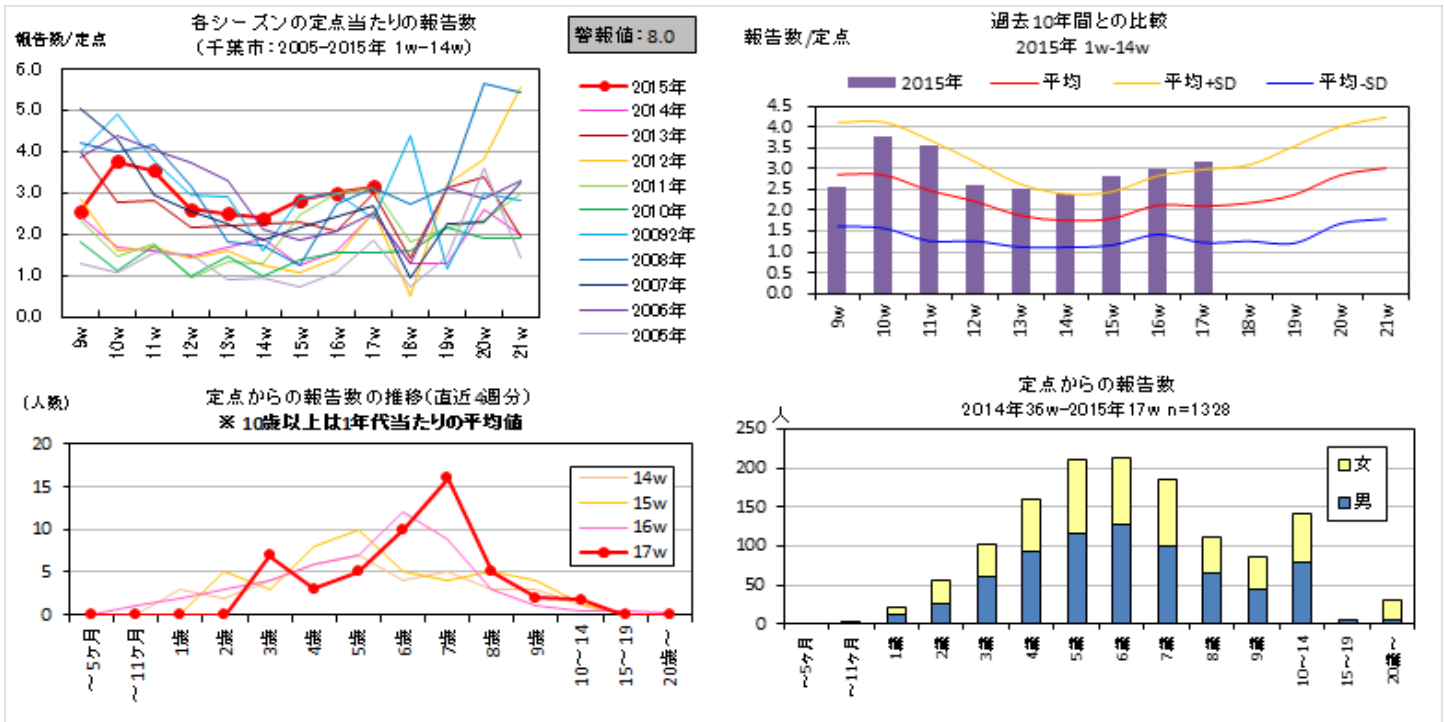
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>前週より増加し3.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<伝染性紅斑>前週より増加し1.28となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの2015年第16週現在は、過去8年間の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、鳥取県、石川県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第17週は、前週より増加し3.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況では、若葉区(4.5/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第17週現在の累積報告数(n=1328)によると、性別では男性が55.7%(740名)、女性が44.3%(588名)で、年齢階級別では6歳(16.12%:214名)、5歳(15.9%:211名)、7歳(13.9%:185名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの2015年第16週現在は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、福岡県、山口県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第17週は、前週より増加し1.28となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況では、緑区(2.5/定点)で流行警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳及び7歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第17週現在の累積報告数(n=180)によると、性別では男性が52.8%(95名)、女性が47.2%(85名)で、年齢階級別では7歳(18.3%:33名)、6歳(15.6%:28名)、3歳(13.9%:25名)の順に多くなっています。

